

(様式第3号：メニュー選択型)

令和7年度みやぎ環境交付金（メニュー選択型）事業 } 計画書
実績書

市町村名	大崎市	部課係名	産業経済部農政企画課
事業名	市民参加モニタリング調査普及啓発及びスマート農業と水田生物との共生事業		
新規・継続の別	新規 ・ 継続 （丸で囲むこと）		
事業概要 (背景、目的、 事業内容、事業量等)	<p>現在、国際的に生物多様性の回復が喫緊の課題となる中、「宮城県生物多様性地域戦略」においても、生態系を育む「農村環境の保全」が課題として挙げられています。本市では、居久根などのランドスケープとつながった農業生物多様性が高く評価され、平成29年に世界農業遺産「大崎耕土」に認定され、市民参加型の広域的なモニタリング調査及び定量化事業（大崎市居久根ネイチャー・ポジティブ実証事業）を実施してきました。</p> <p>本事業では、環境負荷が少なく生物多様性を育む水稻の有機栽培を実践する上で、水田雑草の抑草効果が期待される「アイガモロボット」について、環境負荷軽減だけでは無く、水田生物との共生を目指すため、これまでに市民参加型の調査として実施してきたアカトンボ類に着目し、羽化時等の影響の有無について調査しました。</p> <p>また、市民や関係団体等の協力を得ながら、減少している草地環境の変化を知るためのバロメーターとされる「バッタ類」の調査方法をイベントをとおして普及啓発しました。</p> <p>今後これまで実施してきた「チョウ類」、「アカトンボ類」、「メダカ、ドジョウ類」、「セミ類」とともに、身近な生物群のモニタリング調査を市民や関係団体との連携で実施し、大崎耕土の生物多様性や自然環境の変化等について把握することで、その保全に向けた取組を進めていきます。</p>		
前年度からの変更点 (継続事業の場合のみ)	前年度「セミ類」から「バッタ類」に調査対象種を移行。「アイガモロボット」によるアカトンボ類への影響調査を実施しました。		
事業完了日	令和8年2月16日		
事業効果	二酸化炭素削減効果 (kg-CO₂)	計画	
		実績	
	その他 (普及啓発人数等)	計画	70人 (普及啓発人数)
		実績	60人 (普及啓発人数)